

# 中欧研修レポート

城西大学薬学部医療栄養学科

3年 下柳田真衣

今回の中欧研修を体験して私はそれぞれの国の食文化、ユダヤの歴史、3か国を結ぶ国境について書きたいと思いました。

まず初めに、中欧の食文化についてです。

なぜ食文化について気になったかという、私は今大学で管理栄養士の勉強をしているのでそれぞれの国での食文化について興味があるからです。まず初めに、驚いたことはベジタリアンの人やお店が多かったことです。日本ではベジタリアンな人はいてもあまりベジタリアンレストランは多く見られません。しかし、ヨーロッパではあちらこちらにベジタリアンレストランがありたくさんの方が店内にいました。日本でなかなか見ることのないレストランだったのでびっくりしました。それに、「お水」についても日本と違うところがあると感じました。日本のお水は比較的に軟水が多く、レストランなどへ行っても無料で提供されることが多くあります。しかし、4か国ともスーパーなどで売られているお水は硬水が多く、レストランなどで提供されるお水は、ミネラルウォーターよりスパークリングウォーターのほうがとても安かったです。私はあまりスパークリングウォーターや硬水のお水を飲む機会がないので少し飲みづらかったです。

次にお酒についてです。ヨーロッパのレストランでは多くの方がワインを飲んでいました。日本のお店ではカクテルやサワーが多いイメージがありますが、ヨーロッパではワインが主流だと感じた。カクテルは多少置いてあったけどサワー系のお酒がまったくありませんでした。なぜヨーロッパではワインが主流なのか疑問に思い調べてみました。ワインの主な原料はブドウです。ヨーロッパのイタリア、フランスではブドウの生産量は世界上位を占めています。その為ワインの大量生産が可能だと思った。ワインには赤ワイン、白ワイン、スパークリングワインなど様々な種類があります。ヨーロッパに人たちがよく飲んでいたのは赤ワインのほうが多いと思いました。赤ワインの製造工程はまず、熟した葡萄を発酵→圧搾した後に樽に入れ濾過などを繰り返し行うことで赤ワインが出来上がります。白ワインの製造工程は、先に圧搾→発酵の順番で行われます。先に圧搾することでワインとして出来上がったときに色につかないのが特徴です。先に発酵、圧搾をするだけの違いで味も風味も見た目も違うワインができます。また、赤ワイン白ワインと違って炭酸が入っているスパークリングワインもあります。私はスパークリングワインとシャンパンの違いについて疑問に思いました。「スパークリングワイン」は、一般的には3気圧以上のガス圧を持った発泡性のワインの総称であり、その中でも「シャンパン」はフランスのシャンパーニュ地域で作られ、かつフランスのワインの法律に規定されている条件に満たしたもののみ名乗ることができる名称のことです。また、調べていると宗教も関わって

ることが分かりました。キリスト教のイエス様が最後の晩餐で葡萄酒を「これは私の血液だ」と言っていたという事が聖書に残っています。それ以降葡萄酒は聖なる飲み物と示されていました。その為、キリスト教の信仰が盛んなヨーロッパではワインが多く飲まれていると推測できます。また、最終時に訪れたハンガリーでは「トカイワイン」が有名です。



トカイワインはハンガリーのトカイと言う地域で生産されているワインのことで見た目は白ワインのようなのですが、白ワインに比べて甘くとても飲みやすかったです。トカイワインは「貴腐ワイン」と称されています。貴腐とは白ワインの原料のブドウがカビ菌に感染する事によって糖度が高まり、芳香を帯びる現象のことを言います。ドイツなどでは「高貴なる腐敗」という意味もあるそうです。ハンガリーでトカイワインが生まれたのは、17世紀にトカイはオスマン帝国の侵略を受け、住民たちはこの地域から避難せざる得なくなった。村を離れている間にブドウの収穫期を過ぎてしまい、トカイ地域は2つの川が合流するため秋から冬にかけて比較的濃い霧が発生しやすく、収穫期を過ぎてしまった為、霧によって収穫されずに残ったブドウにカビがつき、腐り始めました。そのブドウでワインを作ったところ、濃厚で甘い蜜のようなワインになったのが始まりであります。とても甘くておいしかったです。また、チェコのプラハの町の露店にはホットワインが売っていて日本では売っていないようなワインもおいてあり、実際に現地へ行ってその国の伝統的にお酒や食べ物を飲んでみる、食べてみるという経験はとてもいい経験になりました。

次にユダヤの歴史です。

ハンガリーのドナウ川沿いには「靴の銅像」がたくさんありました。



ドナウ川に向かってブーツやハイヒール、また子供用の小さな靴もありました。靴の銅像付近にはたくさんの観光客がいて、ハンガリーを代表する観光名所の1つですがそこは、第二次世界大戦でハンガリーに住むユダヤ人はナチス・ドイツにより迫害されました。ナチス・ドイツにより迫害されたユダヤ人は1944年末の冬の寒い時期にドナウ川沿いに並べさせられ後ろから銃撃されたというとても残虐なことが起き、当時の靴はとても高価な日用品だったため、靴を脱ぎ捨て、ドナウ川に飛び込んだと聞きました。一晩に40~60人の方が命を落とし、計5千人近くに人が命を落としたと言われていています。二度とこのような残虐なことが起きてはいけないと思いました。またハンガリーのドナウ川沿いにある国会議事堂はとても大きく「世界で最も美しい国会議事堂」と言われているのを知っていたので、見るのが楽しみでした。



夜、見てみるとライトアップされていて本当に奇麗でした。それ以上に部屋数の多さにも驚きました。のちに調べると内部に27個の門、10の中庭と、691部屋、13個のエレベーターがあることがわかりました。とても美しかったので昔は宮殿として利用していて、のちに国会議事堂として利用されていたのかと思いましたが、昔から国会議事堂として建設していることから当時のハンガリーはヨーロッパの中でも首位を争うほどの地位があったと思いました。また、国会議事堂の横の博物館の壁には当時の銃弾の跡が残っており、私が想像している銃弾よりもとても大きくたくさんの数の銃弾が残っていたのを覚えています。



その、銃弾の前には靴の銅像の川沿いに面していることから住宅街からドナウ川まで銃を持ったナチス・ドイツの人たちに追い詰められてと考えられる。

最後の3か国を結ぶ国境についてです。

スロバキアのブラチスラバではオーストラリア、ハンガリー、スロバキアの3か国の国境が交わる「sculpture park」3時間くらい歩いて国境を見に行きました。日本は島国なので歩いて国境を見に行くなど日常的にできる経験ではありません。海外行く際にはパスポートを持ち、税関を通過して行く、というのが当たり前だと思っていました。しかし、日本と違い陸続きの国境を有するヨーロッパではパスポートも税関のチェックもなく徒歩や車などで他の国に行ける事が可能でした。そして実際に歩いてみると大草原の周りは菜の花畑が広がっていて、とてもきれいでした。sculpture parkにつくと三角のテーブルと小さい塔が立っていました。塔にはO, M, Sと書かれおり、テーブルにはそれぞれの国の国旗が描かれていました。塔の隣に1つだけ有刺鉄線が残っていました。



今は1つだけ有刺鉄線が引かれていましたが、当時はあたり一面にびっしりと張り巡らされていたと考えられる。今は3カ国ともEUに加盟しているからこそ、自由に国境を行き来することができるようになった。

また、ヨーロッパでは1961年から1989年までの冷戦期にドイツの首都ベルリンで「ベルリンの壁」が存在した。冷戦期ドイツは東西陣営に分裂していたが、往来が自由であったベルリン市内の国境戦を経由して西側への人口流出が東ドイツに深刻な影響を及ぼした為、西ベルリンの周囲を全て有刺鉄線で隔離しその後コンクリートの壁「ベルリンの壁」を作った。1989年の東欧革命に伴ってベルリンの壁は撤去され、今では自由に行き来できるようになった。このように、日本のように島国ではなく陸続きの大陸では、他国からの侵入を防ぐために有刺鉄線を張ったり、1つの国の中で壁を作って侵入を阻止したりして、自分の国を守るためにあらゆる手段を使ったと考えられる。今ではヨーロッパのほとんどの国がEUに加盟している為自由に行き来ができるようになった。実際に自分の目で国境が見ることができて日本にいる中では考えられない色々なことを考えさせられました。

中欧研修では、普段の観光では行けないようなところに連れて行って貰い、現地の日本語学生の生徒さんとの交流があり17日間であくさんの人と仲良くなれました。普段外国人と食事を交わす機会が全くないので一緒にご飯を食べて、夜散歩してたくさんお話して、日本はいい国だから行ってみたい！と言ってくれてとっても嬉しかったです。また、その国々での歴史、文化を実際に目でみることでよかったです。